

# 河内長野市埋蔵文化財調査報告書 XI

## 天野山金剛寺遺跡 三日市 遺跡

1995年3月

河内長野市教育委員会

## 序 文

河内長野市は自然と文化財に恵まれた豊かな町です。

そして、大阪市内へ30分と言う通勤条件に恵まれ、この環境とともに人々をひきつけ、近年は府下で最も人口増加が著しい町となりました。この恵まれた環境を求めて人々が移り住んできますと、今度は逆に、受け入れるための整備のために文化財や自然が破壊される危険が増大し、地下に眠る埋蔵文化財は自然と共に真っ先に危機に立たされます。このような状況で、市教育委員会は開発に先立ち、埋蔵文化財の調査を実施し、把握、保存に努めています。

今後とも市民の皆様の協力により、国民共有の財産である埋蔵文化財の保護に努めたい所存です。

最後になりましたが、調査に協力していただきました地主の方々、施工者の皆様方に記して感謝いたします。

河内長野市教育委員会  
教育長 中尾謙二

## 例　　言

1. 本書は平成6年度に河内長野市教育委員会が発掘調査を実施した大野山金剛寺遺跡内の個人住宅（K G T 94-1）及び三日市遺跡内の個人住宅（M I C 94-1・M I C 94-3）にかかる調査報告書である。
2. 本調査は河内長野市教育委員会社会教育課文化係鳥羽正剛を担当者として、平成6年4月1日から着手し、平成7年3月31日をもって終了した。
3. 本書の執筆は鳥羽がおこなった。
4. 遺物の写真は中西和子が撮影した。
5. 現地調査及び内業整理については下記の方々の参加を得た。（敬称略）  
杉木祐子・中村嘉彦・林和宏・東田幸子・松尾和代
6. 本調査については、写真・実測図等の記録ならびにカラースライドを作成した。広く利用されることを希望する。

## 凡　　例

1. 金剛寺遺跡の略称は、K G T (KONGOJI TEMPLE site) である。
2. 三日市遺跡の略称は、M I C (MICKAICHI site) である。
3. 標高は東京湾標準潮位 (T.P.) + の値を用いた。
4. 図中の北は磁北である。
5. 土色は『新版標準土色帖』による。
6. 遺構名は下記の略記号を用いた。  
土坑……SK
7. 遺物実測図の縮尺は、上器1/4・石器2/3である。
8. 須恵器・瓦器・瓦質土器の断面は黒塗り、弥生土器・土師器・土師質土器・黑色土器の断面は白抜きである。また、黑色土器の黒色部分にはスクリーントーンを付した。
9. 遺物実測図の番号と写真図版の番号は共通する。

## 目 次

序 文	
例 言	
凡 例	
第1章 調査の状況	1
第2章 調査の結果 第1節 天野山金剛寺遺跡 KGT94-1	4
第2節 三日市遺跡 MIC94-1	6
第3節 三日市遺跡 MIC94-3	10

## 挿図目次

第1図 河内長野市遺跡分布図 (1/40000)	2
天野山金剛寺遺跡 KGT94-1	
第2図 調査地位置図 (1/5000)	4
第3図 遺構配置図 (1/100)	4
第4図 調査坑土層断面実測図 (1/40)	4
第5図 出土遺物実測図	5
三日市遺跡MIC94-1	
第6図 調査地位置図 (1/5000)	6
第7図 第1調査坑出土遺物実測図	6
第8図 遺構配置図 (1/120)	7
第9図 第1・第2・第3・第4調査坑土層断面実測図 (1/40)	7
第10図 第2調査坑出土遺物実測図	8
第11図 第3調査坑出土遺物実測図	9
三日市遺跡MIC94-3	
第12図 遺構配置図 (1/100)	10
第13図 調査坑土層断面実測図 (1/40)	10
第14図 出土遺物実測図	11

## 表 目 次

第1表 発掘届出件数月別一覧.....	1
第2表 主な民間開発発掘調査一覧.....	1
第3表 河内長野市遺跡地名表.....	3
第4表 天野山金剛寺遺跡（KG T94-1）出土遺物観察表.....	12
第5表 三日市遺跡（MIC94-1）出土遺物観察表.....	12
第6表 三日市遺跡（MIC94-3）出土遺物観察表.....	13

## 図版目次

図版I 遺物 KG T94-1 SK1 (1・2)・包含層(3)、MIC94-1 第1調査坑 (4~7)・第2調査坑(8~11)・第3調査坑(12・13)、MIC94-3 包含層(14~22)	
図版II 遺構 KG T94-1 調査地全景(北から)、KG T94-1 調査坑(北から)	
図版III 遺構 MIC94-1 調査風景(南から)、MIC94-1 第1調査坑(北から)	
図版IV 遺構 MIC94-1 第2調査坑(西から)、MIC94-1 第3調査坑(北から)	
図版V 遺構 MIC94-1 第4調査坑(北から)、MIC94-3 調査坑(南から)	

## 第1章 調査の状況

大阪府の東南端に位置する河内長野市は、旧河内国錦部郡に属し、紀伊・大和・和泉の三国に接していた。この為、古代から交通の要所となったところである。現代の河内長野市は大阪市への通勤圏に位置し、ベッドタウンとして年々人口の増加する町である。特にここ数年の人口増加は府下でも屈指の伸び率を示し、住宅の新築・改築件数も増えている。この為、住宅開発とあわせて交通アクセスの整備、住宅環境の整備など、公共事業も盛んである。この結果、地下に眠る埋蔵文化財への影響は避けてとおることのできない問題となっている。このような状況のなかで本市教育委員会は文化財の保護の立場から記録保存のための発掘調査を実施した。

本年度の文化財保護法57条の2及び3の発掘届及び発掘通知の件数は、1月末現在で総数73件（発掘届64件、発掘通知9件）である。また、遺跡の新規発見届及び発見通知は4件提出されている。発掘届にみられる原図者の状況は、住宅造成地での個人住宅の建築及び改築に伴う届出が目立った。また、道路の開通と共に店舗の新設も増えている。

試掘調査の結果、新規発見の遺跡が1件あり遺跡数は増加するばかりである。

第1表 発掘届出件数月別一覧 (1月末現在)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	総 数
発掘届 (57条の2)	10	4	9	8	6	5	8	5	7	2	64
発掘通知 (57条の3)	1	2			4	1			1		9
発見届 (57条の5)								1			1
発見通知 (57条の6)	1		1					1			3

第2表 主な民間開発発掘調査一覧

(1月末現在)

遺跡名	調査期間	申請者	申請面積	用途	区分	備考
高 向	H 6. 2. 14～5. 12	三浦健彦 三浦雅彦	315.29m <sup>2</sup>	個人住宅	原図者	中世の土師質土器出土
上 原 北	H 6. 3. 2～4. 15	㈱チエンストア オークワ	6,562.86m <sup>2</sup>	店舗	原図者	13世紀の繩文柱頭物、井戸、 轟、上塀を検出
古 野 町	H 6. 5. 16	辻野雅夫	491.05m <sup>2</sup>	共同住宅	原図者	遺構・遺物なし
金 刺 寺	H 6. 5. 23～5. 25	永原喜代一	362.42m <sup>2</sup>	個人住宅	団 庫	本書掲載
三 日 市	H 6. 5. 26～6. 14	篠渡京方	100.16m <sup>2</sup>	個人住宅	団 庫	本書掲載
旗 谷	H 6. 6. 6	竹橋史雄	152.94m <sup>2</sup>	動物病院	原図者	遺構・遺物なし
三 日 市	H 6. 6. 21	重倉契	327.00m <sup>2</sup>	個人住宅	団 庫	本書掲載
吾 多 町	H 6. 6. 28	オランダ庭園	75.91m <sup>2</sup>	分譲住宅	原図者	遺構・遺物なし
旗 谷	H 6. 7. 26	ミズヤ物	884.36m <sup>2</sup>	倉庫及び事務所	原図者	中世の土師質土器、皿出土
高 向	H 6. 9. 6	車谷清一	273.05m <sup>2</sup>	個人住宅	団 庫	遺構・遺物なし
三 日 市	H 6. 10. 7～10. 11	東急不動産㈱ 西支社	8,622.00m <sup>2</sup>	分譲住宅	原図者	遺構・遺物なし
鳥帽子形城	H 6. 12. 7	㈱ティー・アイ・ コ・ボーレ・ジョン	9,285.21m <sup>2</sup>	分譲住宅	原図者	遺構・遺物なし
市 町 西	H 6. 12. 8	太陽興産㈱	2,229.16m <sup>2</sup>	分譲住宅	原図者	中世の土坑検出



第1図 河内長野市遺跡分布図 (1/40000)

第3表 河内長野市遺跡地名表

( ) は地図範囲外

番号	文化財名称	種類	時代
1	長野神社遺跡	社寺	室町
2	河合寺	社寺	
3	觀心寺	社寺	平安～
4	大師山古墳	古墳	古墳(前期)
5	大師山南古墳	古墳	古墳(後期)
6	大師山遺跡	集落	弥生(後期)
7	興禪寺	社寺	
8	鳥帽子形八幡神社	社寺	室町
9	啄穴古墳	古墳	古墳(後期)
10	長池遺跡	生産	平安～近世
11	小山田1号古墓	墳墓	余良
12	小山田2号古墓	墳墓	奈良
13	延命寺	社寺	
14	金剛寺	社寺	平安～
15	日野國音寺遺跡	社寺	中世
16	蛇溝寺	社寺	
(17)	岩湯寺	社寺	平安～
18	五ノ木古墳	古墳	古墳(後期)
19	高向遺跡	集落	旧石器～中世
20	鳥帽子形城跡	城館	中世～近世
21	喜多町遺跡	集落	繩文～中世
22	鳥帽子形古墳	古墳	古墳(後期)
23	末広窯跡	生産	
24	塙谷遺跡	散布地	縄文～中世
25	淀谷八幡神社	社寺	
26	蟹井瀬南遺跡	散布地	中世
27	蟹井瀬北遺跡	散布地	中世
28	天見駿北方遺跡	散布地	中世
29	千早駿南遺跡	散布地	中世
30	岩瀬桑師寺	墳墓	近世
31	清水遺跡	散布地	中世
32	仲麻天皇社跡	古墳?	
(33)	堂村地蔵堂跡	社寺	近世
34	滝畠埋墓	墳墓	近世
(35)	中村阿弥陀堂跡	社寺	近世
(36)	東の村般音堂跡	社寺	近世
(37)	西の村般音堂跡	社寺	近世
38	清水阿弥陀堂跡	社寺	近世
39	施尻弥勒寺	社寺	近世
(40)	宮ノ下内墓	墳墓	古墳
41	宮山古墳	古墳	古墳
42	宮山遺跡	散布地	縄文～中世
43	西代藩屋跡	城館	江戸
		飛鳥～奈良	
44	上原町墓地	墳墓	
45	照持寺跡	社寺	鎌倉
46	樂山遺跡	祭祀	中世～近世
47	寺ヶ池遺跡	散布地	縄文
48	上原遺跡	散布地	中世
49	住吉神社遺跡	社寺	
50	高向神社遺跡	社寺	中世
51	青が原神社遺跡	社寺	
52	猪所瀬河洲出張所跡	城館	江戸
53	双子冢古墳跡	古墳	古墳
54	菱子尻遺跡	散布地	縄文～中世
55	河合寺跡	城館	
56	三日市遺跡	集落	旧石器～近世
57	日の谷城跡	城館	室町
58	高木遺跡	散布地	縄文
59	沙の山城跡	城館	中世
60	峰山城跡	城館	中世
61	福荷山城跡	城館	中世
62	国見城跡	城館	中世
63	旗藏城跡	城館	中世
64	惣現城跡	城館	中世
(65)	天神社遺跡	社寺	
(66)	葛城第15經塚	経塚	
67	加賀田神社遺跡	社寺	中世
68	庚申堂	社寺	
69	石仏城跡	城館	中世
70	佐近城跡	城館	中世
71	旗尾城跡	城館	中世
72	葛城第16經塚	経塚	
(73)	葛城第18經塚	経塚	
(74)	葛城第19經塚	経塚	
(75)	芭尾城跡	城館	中世
(76)	大武城跡	城館	中世
(77)	三国山経塚	経塚	
(78)	光滝寺跡	社寺	
(79)	猿子城跡	城館	中世
80	蟹井瀬神社遺跡	社寺	
(81)	川上神社遺跡	社寺	
82	千代田神社遺跡	社寺	
83	向野遺跡	遺跡	縄文～室町
84	古野町遺跡	散布地	中世
85	上原北遺跡	散布地	
86	大日寺遺跡	社寺	中世
87	高向南遺跡	散布地	縄文
88	小塙遺跡	集落	縄文～奈良
89	加塙遺跡	集落	古墳(後期)
90	尾崎遺跡	集落	古墳～中世
91	ジョウマエ遺跡	城館?	中世
92	仁土山城跡	城館	中世
93	タコラ城跡	城館	中世
94	岩立城跡	城館	中世
95	上原近世瓦窯	城館	近世
96	市町東遺跡	散布地	弥生・中世
97	上田町窯跡	生産	近世
98	尾崎北遺跡	散布地	古墳
99	西之山町遺跡	集落	中世
100	野間里遺跡	集落	平安
101	鳴尾濱遺跡	散布地	中世
102	上田町遺跡	散布地	古墳・中世
103	上原中遺跡	散布地	古墳・中世
104	小野塚	墳墓	
(105)	葛城第17經塚	経塚	
106	萬佛堂跡	社寺	中世～
107	野作濱遺跡	集落	中世
108	寺元遺跡	集落	奈良・中世
(109)	鳴原遺跡	散布地	中世
110	法師塚古墳跡	古墳	
111	山上講山古墳跡	古墳	
112	西浦遺跡	集落	古墳・中世
113	地福寺跡	社寺	近世
114	宮の下遺跡	集落	平安～中世
115	栄町遺跡	散布地	縄文・古墳
116	鶴町遺跡	散布地	中世
(117)	太井遺跡	散布地	中世
118	綿町北遺跡	社寺	中世
119	巾町西遺跡	散布地	縄文・中世
120	柴町南遺跡	散布地	中世

## 第2章 調査の結果

### 第1節 天野山金剛寺遺跡 KGT94-1

#### 1. 結果

調査地は河内長野市天野町970に所在し、T.P.168mの地点にある。

地理的環境としては、和泉葛城山系から北方に延びる尾根の谷間をぬって北方へと流れる西除川の西岸に位置する。

歴史的環境としては、天野山金剛寺遺跡の北部に位置し、南側には天野山金剛寺の塔頭の1つである吉祥院がたたずまいを残している。

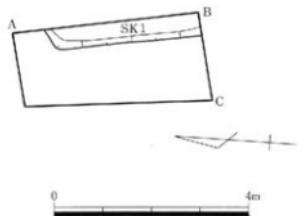
調査は、東西1.8m×南北3.8mの規模で調査坑を設定して行った。



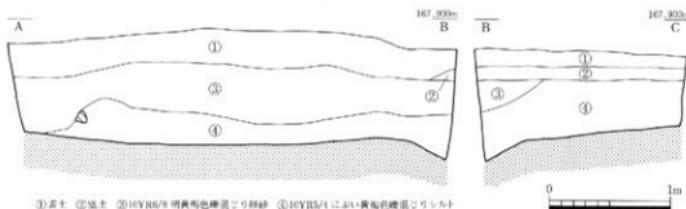
第2図 調査地位置図 (1/5000)

#### 基本層序 (第4図)

基本層序は表土（層厚約20cm）、盛土（同約10cm）、明黄褐色礫混じり細砂（同約30cm）、にぶい黄褐色礫混じりシルト（同約30cm）であった。地山はにぶい黄褐色礫混じり粘土であった。



第3図 遺構配置図 (1/100)



第4図 調査坑土層断面実測図 (1/40)

### 遺構と遺物

遺構面は現地表面上下0.9mで検出し、土坑1基を検出した。

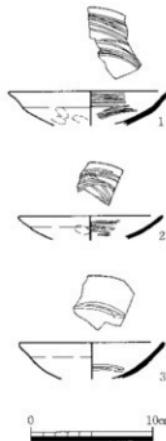
#### 〔SK1〕（第3・5図、図版I・II）

調査坑の東側に位置する。東側は調査区外に及び検出できなかつたので詳細な規模は不明である。検出した遺構の規模は、長さ3.2m、幅0.45m、深さ0.2mを測る。

遺物は瓦器塊（1・2）が出土した。尾上編年Ⅳ-2～4に相当し、14世紀～15世紀前半のものと考えられる。

#### 〔包含層〕（第5図、図版I）

包含層からの遺物には、尾上編年Ⅳ-3～4に相当する瓦器塊（3）がある。14世紀中頃のものと考えられる。その他には土師質皿、甕、瓦器塊、瓦質甕、陶器塊が出土したが、いずれも細片のため図化できなかった。



第5図 出土遺物実測図

## 2.まとめ

調査の結果、調査坑が狭小であるため詳細なことはわからなかった。今後の大野山金剛寺の境内北側での調査の成果に期待される。

## 第2節 三日市遺跡 MIC94-1

### 1. 結果

調査地は河内長野市東片添町1-35に所在し、石見川北岸の河岸段丘上に位置している。調査は1.4m×1.8m、1m×3.3m、1m×2.6m、1m×2.3mの調査坑計4箇所を設定して行った。

#### A. 第1調査坑

調査坑は東西1.4m、南北1.8mの規模で設定した。

##### 基本層序（第9図）

基本層序は表土（層厚約40cm）、耕土（同約10cm）、にぶい黄褐色細砂（同約5cm）、床土（同約5cm）、オリーブ褐色粘土混じり細砂（同約30cm）であった。地山はオリーブ褐色粘土であった。



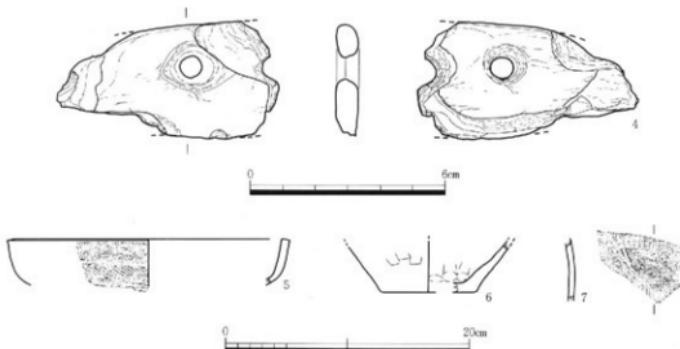
第6図 調査地位置図 (1/5000)

##### 遺構と遺物

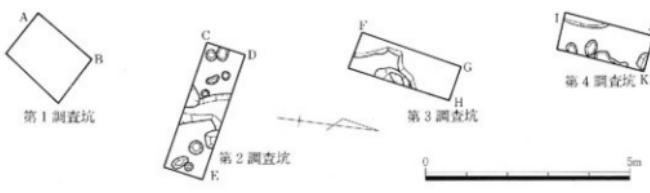
地山は現地表面下0.9mで検出されたが、遺構は検出できなかった。（第8図、図版III）

##### 〔包含層〕（第7図、図版I）

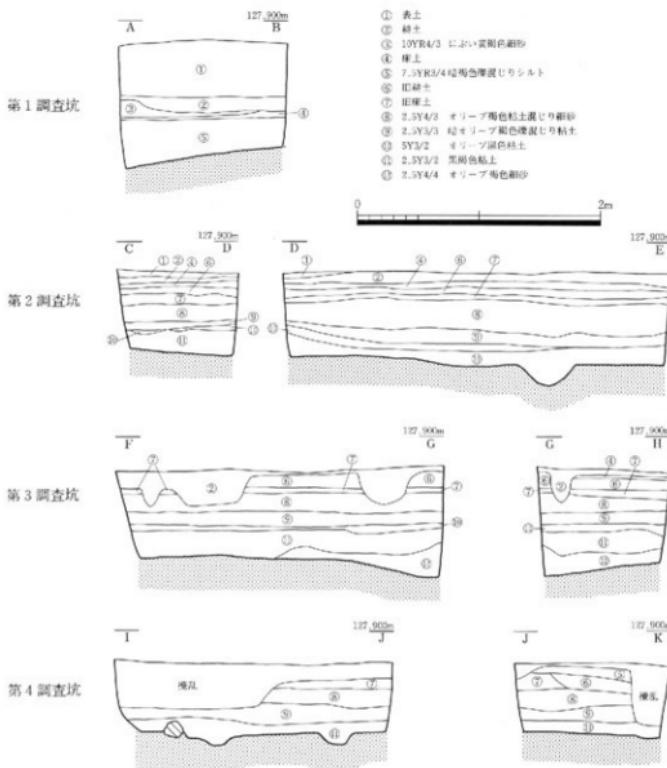
出土した遺物には、生駒西麓産と考えられる弥生時代中期で畿内第III様式の高坏（5）、



第7図 第1調査坑出土遺物実測図



第8図 遺構配置図 (1/120)



第9図 第1・第2・第3・第4調査坑土層断面実測図 (1/40)

壺（7）、第IV様式に相当するものと考えられる甌（6）、石包丁（4）があった。（5）の外面は、平行斜線文を上下2状を対とし綾杉形に施す。口縁端部はやや外傾する平坦面を呈し、内面にかけてナデを行う。（6）の底部外面はヘラケズリを下方から上方へと行

う。内面はユビオサエで器壁の立ち上がり元を整えた後、連続してユビナデを下方から上方へと行っている。（7）の外面は簾状文で整えられている。内面は摩滅のため詳細な観察はできないがナデと考えられる。他にサスカイト片が4点出土したが、図化できなかった。

#### B. 第2調査坑

調査坑は東西3.3m、南北1mの規模で設定した。

##### 基本層序（第9図）

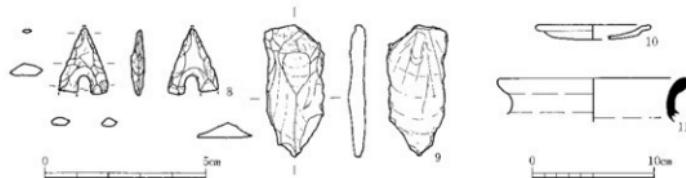
基本層序は、表上（層厚約5cm）、耕土（同約5cm）、床土（同約5cm）、旧耕土（同約5cm）、旧床土（同約5cm）、オリーブ褐色粘土混じり細砂（同約15cm）、暗オリーブ褐色疊混じり粘土（同約5cm）、オリーブ黒色粘土（同約5cm）、黒褐色粘土（同約20cm）であった。地山はオリーブ褐色粘土上であった。

##### 遺構と遺物

遺構面は現地表面下0.7mで検出し、土坑、溝、ピットを検出したが、遺物が出土したものではなかった。（第8図、図版IV）

##### 〔包含層〕（第10図、図版I）

包含層からは、サスカイト製の石鎌（8）、石刃状剝片（9）、土師器皿（10）、須恵器壺口縁（11）が出土した。（8・9）は繩文時代のものと考えられる。



第10図 第2調査坑出土遺物実測図

#### C. 第3調査坑

調査坑は東西1m、南北2.6mの規模で設定した。

##### 基本層序（第9図）

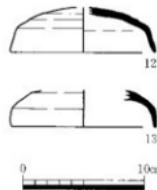
基本層序は、耕土（層厚約5cm）、旧耕土（同約10cm）、旧床土（同約5cm）、オリーブ褐色粘土混じり細砂（同約15cm）、暗オリーブ褐色疊混じり粘土（同約10cm）、オリーブ黒色粘土（同約5cm）、黒褐色粘土（同約15cm）、オリーブ褐色細砂（同約10cm）であった。地山はオリーブ褐色粘土であった。

### 遺構と遺物

遺構面は現地表面下0.75mで検出し、土坑を検出したが、遺物が出土したものはなかった。（第8図、図版IV）

#### 〔包含層〕（第11図、図版I）

包含層からは、須恵器坏蓋（12・13）が出土した。陶邑編年II～IVに相当し、6世紀後半から7世紀前半のものと考えられる。



第11図 第3調査坑出土  
遺物実測図

### D. 第4調査坑

調査坑は東西1m、南北2.3mの規模で設定した。

### 基本層序（第9図）

基本層序は、旧床土（層厚約10cm）、オリーブ褐色粘土混じり細砂（同約15cm）、暗オリーブ褐色疊混じり粘土（同約15cm）、黒褐色粘土（同約15cm）であった。地山はオリーブ褐色粘土であった。

### 遺構と遺物

遺構面は現地表面下0.55mで検出し、土坑、ピットを検出したが、遺物は出土しなかった。（第8図、図版V）

## 2.まとめ

近年、石見川北岸の河岸段丘上での発掘調査例が増加する傾向にあるが、調査坑が狭小のため、遺構の実態を把握できたものはなかった。しかし、今回の調査の結果、調査地の地理的環境と出土した弥生時代中期から後期の土器、石包丁から、このころには旧石見川がもたらした僅かな沖積地を利用した水田が存在していた可能性を指摘できたのは最大の成果であった。また、このことは今後の調査方法の指針を与える好資料となった。

### 第3節 三日市遺跡 M I C 94-3

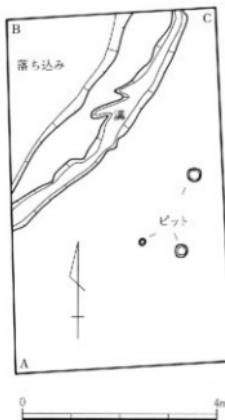
#### 1. 結果

調査地は東片添町293に所在する。石見川南岸の河岸段丘上にあり、T.P.137mに位置している。前述のM I C 94-1の調査地が位置する北岸段丘上はT.P.127mであるので、その比高差は10mに及び、周囲を見晴らす立地となっている。三日市遺跡内の石見川南岸の段丘上には三日市古墳群が位置している。調査地はM I C 92-1（既報）の調査地の東側に位置し、古墳群と連続した段丘上にある。

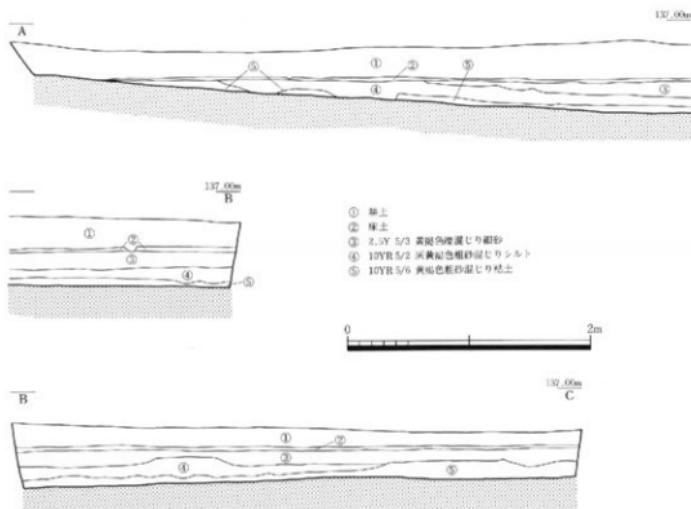
調査坑は東西4.5m、南北7.3mの規模で設定した。

#### 基本層序（第13図）

基本層序は、耕土（層厚約25cm）、床土（同約5cm）、黄褐色疊混じり細砂（同約10cm）、灰黃褐色粗砂混じりシルト（同約10cm）、黄褐色粗砂混じり粘土（同約5cm）であった。地山は黄褐色粘土であった。



第12図 遺構配置図 (1/100)



第13図 調査坑土層断面実測図 (1/40)

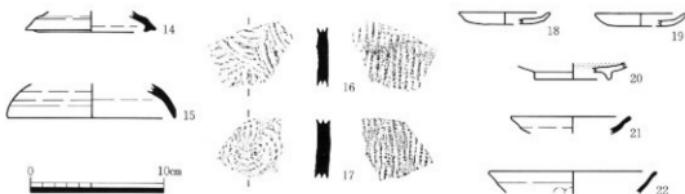
## 遺構と遺物

遺構面は現地表面下0.55mで検出し、溝、落ち込み、ピットを検出したが、遺物が出土したものはなかった。（第12図、図版V）

### 〔包含層〕（第14図、図版I）

包含層からの出土遺物には、須恵器坏蓋（14・15）、甕（16・17）、土師質皿（18・19）、黒色土器A類塊（20）、瓦質皿（21）、瓦器塊（22）があった。その他にも、サヌカイト片、須恵器甕、土師質皿、土釜、瓦器塊、瓦が出土したが、細片のため図化できなかった。

（14）は陶邑編年III-1に相当し、6世紀後半から7世紀初頭のもの、（15）は陶邑編年II-4に相当し、6世紀後半のものと考えられる。



第14図 出土遺物実測図

## 2.まとめ

調査の結果、M1C92-1で検出された古墳群と関連をもつと特定できる遺構、遺物は検出できなかった。しかし、若干の遺構や遺物が存在することが分かり、今後の調査で石見川南岸の東側にどれほど遺構が広がりをもつかを把握するのが課題となった。

第4表 天野山金剛寺遺跡（KG T94-1）出土遺物観察表

番号	出土地点	種別	器種	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	特徴	備考
1	SK 1	瓦器	瓶	口径 13.2 器高(残) 2.8	密	良	外面 灰 内面 灰・灰白 断面 灰白	口縁部は外反し、頸部はまるくおさめる。口縁部外側はヨコナギ、体部外側には指オサニギが残る。内面はやや縮れなラミガキを施す。高台は欠損。	尾上編年Ⅱ-2
2	SK 1	瓦器	瓶	口径 11.8 器高(残) 1.9	密	良	外面 灰・灰白 内面 灰・灰白 断面 灰白	口縁部はわざずに内凹するもせっかく上方にのびる。頸部はまるくおさめる。口縁部外側はヨコナギ、体部外側には指オサンギが残る。内面は粗いラミガキを施す。	尾上編年Ⅱ-2~4
3	包含層	瓦器	瓶	口径 11.8 器高(残) 3.0	密	良	外面 灰白 内面 灰白 断面 灰白	口縁部は内凹しながらまっすぐ上方にのびる。頸部はまるくおさめる。口縁部外側はヨコナギ、体部外側はナデ調査。内面見込み部には粗いラミガキを施すが、摩耗のため詳細は不明。高台は欠損。	尾上編年Ⅱ-3~4

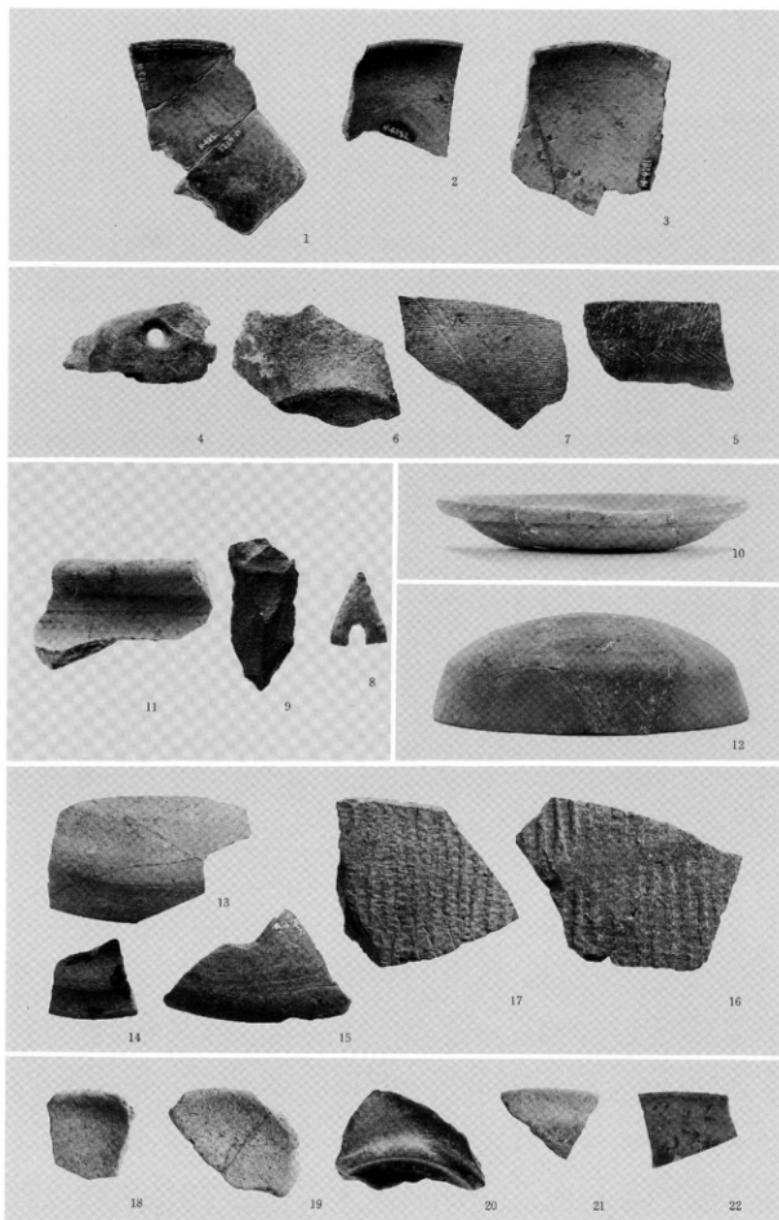
第5表 三日市遺跡（M I C94-1）出土遺物観察表

番号	出土地点	種別	器種	法量 (cm)	胎土	焼成	色調	特徴	備考
4	第1調査坑 包含層	磨製石器	石臼丁	長さ 6.85 幅 3.6 厚さ 0.7 重量 25.6g	—	—	—	刃部は欠損している。	縁配石岩
5	第1調査坑 包含層	赤生土器	高环 (环部)	口径 22.0 器高(残) 4.3	やや 密	良	外面 灰黄褐色 内面 灰黄褐色 断面 灰黄褐色	口縁部はやや外傾し、塊部は茎上面を呈する。口縁部外側は縦隔筋により横筋間に文様を施す。	生駒西面窓 鏡内第Ⅲ様式
6	第1調査坑 包含層	赤生土器	甌 (底部)	底径 7.6 器高(残) 4.3	密	良	外面 明灰黃 内面 淡黄 断面 姫灰黄・淡黄	平底で、体部は上方方に伸びる。体部外側はヘラケヅリ、内面はユビナダを施す。	生駒西面窓 鏡内第Ⅳ様式
7	第1調査坑 包含層	赤生土器	甌 (体部)	器高(残) 5.15	密	良	外面 灰黄褐色 内面 にぶい黄 断面 にぶい黄	体部外側は慶状文と櫛接き直線文を施す。内面はヘラケヅリ。	生駒西面窓 鏡内第Ⅴ様式
8	第2調査坑 包含層	打製石器	石鏃	長さ 2.15 幅 1.6 厚さ 0.4 重量 0.5g	—	—	—	凹基盤式で、平面形は二等辺三角形を呈する。風化が著しい。	サヌカイト
9	第2調査坑 包含層	打製石器	剝片	長さ 4.07 幅 1.85 厚さ 0.53 重量 4.3g	—	—	—	石刃状調片。	サヌカイト
10	第2調査坑 包含層	土器器	皿	口径 9.2 器高 1.2	密	良	外面 灰白 内面 灰白 断面 灰白	「T」の字状線をもつ。口縁部はヨコナギ。外側底部及び内面はナデを施す。	
11	第2調査坑 包含層	須恵器	甌 (口縁)	口径 15.4 器高(残) 3.6	粗	不良	外面 灰白 内面 灰白 断面 灰白	口縁部は外傾しながら上方に下り、頸部は肥厚する。内面は圓錐形。	
12	第3調査坑 包含層	須恵器	蓋	口径 11.8 器高 3.7	密	良	外面 灰白 内面 灰白 断面 灰	天井部から口縁部はだらかに下る。口縁部は下方へ下り、高部はまるくおさめる。天井部外側は圓錐形ヘラケヅリ。他は回転ナゲ。	陶巴編年Ⅱ-4~5
13	第3調査坑 包含層	須恵器	蓋	口径 11.8 器高(残) 3.0	密	良	外面 灰白 内面 灰白 断面 灰白	口縁部は垂直に下り、頸部は丸い。天井部外側は圓錐形ヘラケヅリ。他は回転ナゲ。	陶巴編年Ⅱ-4~5

第6表 三日市遺跡 (M I C94-3) 出土遺物観察表

番号	出土地点	種別	器種	法量 (m)	胎土	焼成	色調	特徴	備考
14	包含層	須恵器	蓋	口径 9.0 高(底) 1.65	密 並	外面 内面 断面	灰 灰白 灰白	口縁部は外下方へ下る。 縁部のまるいかえりを有し、かぶせで着地する。 回転ナデ。	陶色編年Ⅲ-1
15	包含層	須恵器	蓋	口径 13.7 高(底) 2.8	密 不良	外面 内面 断面	灰 赤灰 赤灰	口縁部は外下方へ下り、 縁部はまるい。回転ナデ。	陶色編年Ⅱ-4
16	包含層	須恵器	腹	高(底) 5.8 (体部) 厚さ 0.8	密 良	外面 内面 断面	灰 灰白 灰白	外面は平行タキ、内面 は同心円状アテ具痕を残す。	
17	包含層	須恵器	腹	高(底) 5.1 (体部) 厚さ 1.0	密 良	外面 内面 断面	灰白 灰白 灰白	外面は平行タキ、内面 は同心円状アテ具痕を残す。	
18	包含層	土師質土器	底	口径 7.4 高(底) 1.0	やや粗 良	外面 内面 断面	樋 樋 樋	平底の底部から短く外上 方に屈らる。口縁部は ヨコナデ、内面と外面部 部はナデを施す。	
19	包含層	土師質土器	底	口径 7.4 高(底) 1.1	やや粗 並	外面 内面 断面	樋 樋 樋	平底の底部からゆるやか に外上方に屈曲する。摩 耗のため調整は不明。	
20	包含層	黒色土器	底	高(底) 1.4 高台径 6.4 高台高 0.6	密 良	外面 内面 断面	浅黄褐色 灰 明黄褐	内外面ともナデを施す。 外面に焦痕が見られる。 内面は黒色。高台は駆付 のちナデ。	A類
21	包含層	瓦質	底	口径 9.8 高(底) 1.4	やや密 良	外面 内面 断面	明黄褐 明黄褐 明黄褐	口縁部は外側する。摩耗 のため調整は不明。	
22	包含層	瓦器	底	口径 13.7 高(底) 1.8	密 良	外面 内面 断面	黒 黒 明黄褐	口縁部はまっすぐ斜上方 にのび、端部はまるくお さめる。口縁部外側にはヨ コナデ、体部外側には指 オサエ痕が残る。内面は 摩耗のため不明。	尾上編年Ⅳ-1

# 図 版



K G T 94-1 SK 1 (1・2)・包含層 (3)

M I C 94-1 第1調査坑 (4~7)・第2調査坑 (8~11)・第3調査坑 (12~13)

M I C 94-3 包含層 (14~22)

図版II 遺構  
天野山金剛寺遺跡（KGT94-1）



KGT94-1 調査地全景（北から）



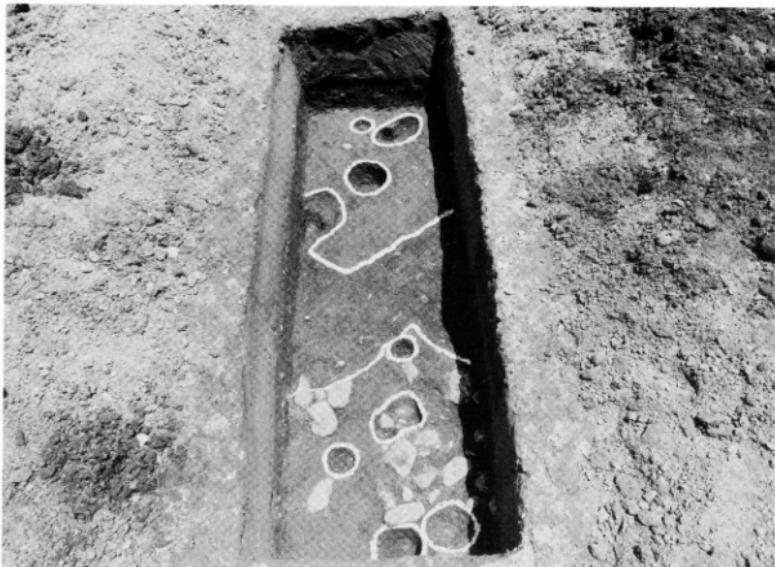
KGT94-1 調査坑（北から）



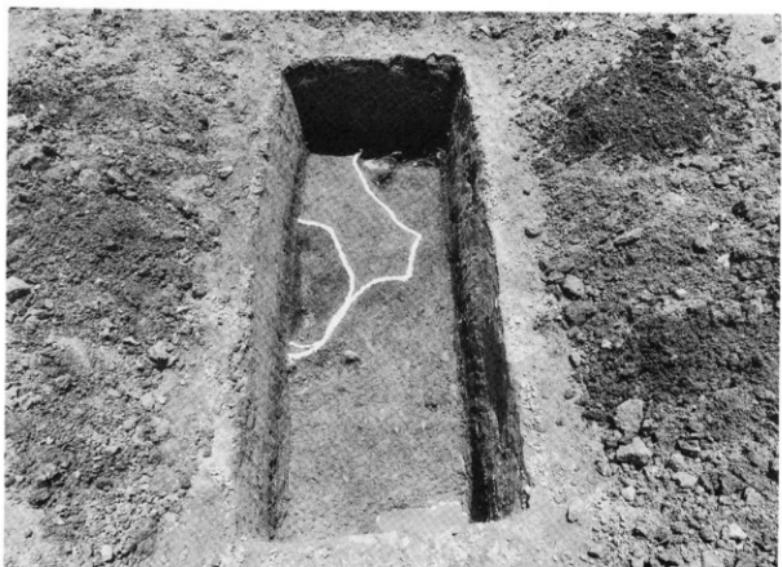
MIC94-1 調査風景（南から）



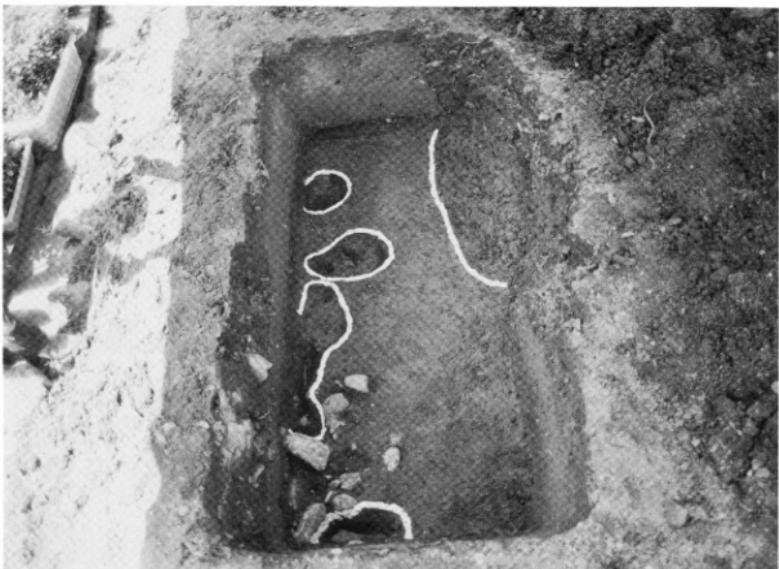
MIC94-1 第1調査坑（北から）



MIC94-1 第2調査坑(西から)



MIC94-1 第3調査坑(北から)



M I C 94—1 第4 調査坑（北から）



M I C 94—3 調査坑（南から）

## 報告書抄録

ふりがな	かわちながのしまいぞうぶんかざいちょうさほうこくしょ
書名	河内長野市埋蔵文化財調査報告書
副書名	天野山金剛寺遺跡 三日市遺跡
巻次	XII
シリーズ名	河内長野市文化財調査報告書
シリーズ番号	第26輯
編著者名	鳥羽正剛
編集機関	河内長野市教育委員会
所在地	〒586 大阪府河内長野市原町396-3 TEL 0721-53-1111
発行年月日	1995年3月31日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
あまのさんこんごうじ 天野山金剛寺	おおさかふねもながのし 大阪府河内長野市 あまのちょう 天野町970	27216	府16 河14	34°25'41"	135°31'55"	1994.05.23	7m <sup>2</sup>	個人住宅建設に 伴う事前調査
みっせん 三日市	おおかかふねもながのし 大阪府河内長野市 ひがしかたせきょう 東片添町1-35	27216	府68 河56	34°25'54"	135°34'33"	1994.05.19 1994.06.16	11m <sup>2</sup>	個人住宅建設に 伴う事前調査
	おおかかふねもながのし 大阪府河内長野市 ひがしかたせきょう 東片添町293					1994.06.21 1994.06.23	33m <sup>2</sup>	個人住宅建設に 伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
天野山金剛寺	社寺	中世	上坑1基	瓦器、土師質土器、瓦質土器、陶器	
三日市	集落	繩文 弥生 古代		石鐵、剝片、石包丁、 弥生土器、須恵器、 土師器	調査地付近に水田遺構 が存在する可能性あり
		古代 中世		須恵器、土師質土器、 黒色土器、瓦器、瓦質 土器、瓦	

